

凡例

(1) 総目次

この「調査季報総目次」には『調査季報』第一号（一九六三年）昭和三十八年（十一月）から第五〇号（一九七六年）昭和五一年（六月）までに掲載した、論文・記事のすべてを収録しました。

目次は、次の項目別に発行号数順に配列しました。特集・巻頭評論

行政研究  
行政資料・資料紹介・文献紹介  
新書紹介・市民生活白書批評  
読書案内  
市政日誌  
その他・読者のページ

なお『調査季報』は、毎号、『特集』を組んで編集していますので、行政研究、行政資料についても関連して参照すると便利です。

(2) 執筆者名索引

執筆者名の数字は、各項目共通の号数を示します。

(1) 総目次

★ 特集・巻頭評論

- 一号（一九六三年）昭和三十八年（十一月）  
横濱市の未来像  
市政と科学的調査  
横濱市の未来像―市民の立場を中心として  
都市計画技術よりみた横濱市の将来について
- 辻 清明  
富田富士雄  
緒形 昭義

横濱市再開発についての基本問題  
国際都市「横浜」に寄せる  
横濱市の工業化政策と都市問題 ―その解決のための方法論  
鳴海 正泰

二号（一九六四年）昭和三十九年（二月）

横濱市の行政水準  
都市行政の内容と地方自治  
社会福祉行政の比較分析  
横濱市の教育行政  
日本の道路と横濱市の水準  
横濱市の清掃事業  
横濱市の衛生行政  
①横濱市民と保健所  
②横濱市民の生活環境をめぐる諸問題  
小杉 国雄  
助川 信彦

三号（一九六四年）昭和三十九年（六月）

子供を大切に  
転換期の自治体財政  
現代の青少年問題とその背景  
横濱の勤労青少年  
社会教育からみた青少年活動  
転換期の青少年問題協議会と行政  
児童福祉行政の現実と対策  
牧野 博庸

四号（一九六四年）昭和三十九年（八月）

だれでも住みたくなる都市づくり  
都市づくりの基本はなにか  
横濱における都市づくりの考え方  
横濱市の都市づくり提案する  
区画整理から都市づくりへ  
宅地開発の現状と問題点  
都市交通対策はいかにあるべきか  
五号（一九六四年）昭和三十九年（十一月）  
海外からみた横濱を考える  
柴田 徳衛  
岩本 正夫  
和田 瑞男  
高見玄一郎  
土橋 宣夫

世界の都市 日本と横濱  
欧州よりみた横濱  
近代都市の条件  
欧米の港をみて横濱港の将来を思う  
欧米の港湾をみて  
高見玄一郎  
白根 雄偉  
遠藤 湖吉  
宮島 肇  
深沢 淑子  
井上 庄平  
植村 慶富  
牧野 博庸  
浅田 孝  
関 音三  
竹島卯三郎  
青沼 昭治  
白居 昭三  
村岡健一郎

米国主要都市の土木施設について  
欧米の清掃事業に学ぶ  
欧州の都市開発をみる  
六号（一九六五年）昭和四〇年（二月）  
地方行政の改革と近代化  
行政改革の方向  
行政事務管理の近代化と能率化  
行政機構改革への提案  
窓口事務の実態と改革への提案  
機械化と文書管理の新しい提案  
研修制度のあり方について  
事業執行はなぜおくれるか  
お役所仕事を批判する ―市長への手紙より  
調査室

七号（一九六五年）昭和四〇年（五月）

宅地開発の現状と対策  
宅地開発行政の基本的事項について  
戦後横濱の宅地開発の経過と現状  
宅地造成関係法の運用とその方向  
横濱市における公的賃貸住宅と宅地開発  
土地問題の所在と都市計画の方向  
宅地造成事業における企業性  
ベッドタウン化の諸問題  
諸外国における宅地開発の手法  
白居 昭三  
田中 高井  
高井 祥夫

八号（一九六五年）昭和四〇年（八月）

戦後二〇年と大都市行政  
社会教育の根本問題  
中小企業対策の再検討  
青少年対策の新しい方向  
都市農業の存立と農政の質的転換  
補助金行政はどうあるべきか  
社会福祉行政の現状と問題点  
松本久雅之介

水沢 勲  
小泉富太郎  
長野 尚友  
成田 頼明  
入江 昭明  
守屋 太郎  
野田 勉  
白木 昭男  
高橋 尚平  
小玉 重光  
内藤 亮一  
高瀬 定雄  
柴田 博  
伊藤 功雄  
長久保美昌  
横塚 瀨  
桑沢世電一  
水野 和昌  
武田 英治  
長野 尚友  
田中 祥夫  
高井 祥夫  
鳴海 正泰  
清水 嘉治  
碓井 貢  
田中 正司  
石渡 貞雄  
小玉 重光

戦後横浜市政年表

九号 (一九六五年(昭和四〇年)一月)

「横浜の都市づくり」に提案する

「都市づくり」はだれのために

横浜都市計画のためのノート

都市政策への提言・防犯から建設へ

明日の横浜づくりのために

横浜市の都市づくりを讀んで

都市づくりへの市民の発言

一〇号 (一九六六年(昭和四一年)二月)

区役所問題

大都市の自治と区制

コミュニケーショントラックの改革

一パーセント区政からの脱出

区長の総合調整機能を強化せよ

出先機関の統合と区長権限の拡大

建築的にみた区総合庁舎と窓口一本化

一〇号 (一九六六年(昭和四一年)五月)

横浜文化論―新しい文化の創造は可能か

「横浜文化論」的前書

横浜文化論への三つのアプローチ

幻影からの脱却

一〇号 (一九六六年(昭和四一年)八月)

調査室

高井 允

石川 雄偉

白根 利雄

中村 実

早瀬 利雄

小此木彦三郎

伊藤 雅章

高木 鉦作

海老原 毅

中田 太郎

諏訪部 周

添田清二郎

河合 正一

川添 登

鳴海 正泰

白土 秀次

齋藤 秀夫

川口 謙二

河西 稔

加藤 衛

山田 長夫

首都圏と横浜

首都圏における横浜の位置

首都圏における人口増加の

パターンとその地域的特性

首都圏と横浜の都市計画

東京周辺地域の問題と問題意識

首都圏に関する統計資料

一三〇号 (一九六七年(昭和四二年)二月)

新しい横浜の記録

都市づくりにおける戦略・戦術

ビッグビジネスの論理と都市問題

地域組織にみる新しい市民意識

横浜市政の回顧と展望

革新市政とはなにか

市政における政治の役割

市民こそ総合的都市計画の推進者

より着実な前進を

市民意識の展開と行政のリーダーシップ

市政の刷新

一四〇号 (一九六七年(昭和四二年)六月)

大都市圏の問題

一五〇号 (一九六七年(昭和四二年)九月)

内井 昭蔵

岸本 実

成田 宏

渡辺 精一

高井 勇

飛鳥田一雄

宮崎 義一

横山 桂次

井手 文雄

早瀬 利雄

大崎平八郎

今井 清一

緒方 昭義

清水 嘉治

河村十寸穂

川村 昌夫

戸村 仁也

宮島 肇

西尾 勝

坂本 良平

伊藤 善市

植村 慶富

コメント・青少年行政に望む

一六〇号 (一九六七年(昭和四二年)十一月)

統一行政の再点検と提案

公園行政のあゆみと今後の課題

消費者行政の現状と将来

コメント・消費者行政に新しいアイデアを

転換期の道路行政

コメント・道路行政のあい路

市民の健康と衛生行政

コメント・衛生行政はこれでよいか

大都市問題のなかの農業行政

コメント・都市農業のめざすもの

教育行政のあり方の再検討

コメント・教育行政の硬直化に提言する

一七〇号 (一九六八年(昭和四三年)二月)

公害対策―横浜方式

横浜の現況とその新しい展開

大気汚染の現状

大気汚染の気象学

大気汚染と文化財

大気汚染の植物に与える影響

大気汚染の人体に及ぼす影響

高橋 四郎

川口 弘

田村 明

加藤 義一

相原 光

朝倉 次郎

任 幸雄

時任 直人

宍戸 昌夫

徳植 末樹

服部 一馬

井上 高三

古田 光

助川 信彦

猿田 勝美

箕輪 年雄

前野 道雄

江本 義理

渡部 光雄

猿田 勝美

征 幸雄

富田富士雄

新しい社会福祉行政  
乳幼児保健対策の新しい方向  
老人問題とその対策  
婦人労働と児童問題  
精神薄弱福祉の現状と問題点  
寿ドヤ街の福祉対策について  
福祉事務所をめぐる諸問題  
二一号 (一九六九年〈昭和四四年〉三月)

市民の安全  
都市計画からみた市民の安全対策  
横浜市における地域防災計画の現状と将来高橋 孝二  
放射能汚染と市民の安全  
横浜市における交通安全とその対策  
都市化と市民の健康  
都市化と犯罪  
二二号 (一九六九年〈昭和四四年〉八月)

都市と緑  
これからの都市計画と緑  
首都圏広域緑地計画の意義  
横浜市における公園・緑地と今後の課題  
公園行政の現状と問題点  
横浜の緑化対策  
近郊農地の計画的保全  
都市再開発とオープンスペース  
二三号 (一九六九年〈昭和四四年〉十一月)

都市化と老人問題  
老人問題の現状  
都市化と老人人口  
横浜市における老人対策  
老人の就職問題  
老人の新しいレクリエーション  
老人ホームの課題  
寝たきり老人の実態  
二四号 (一九七〇年〈昭和四五年〉一月)

基地と市民運動  
都市と基地  
横浜の基地撤廃運動  
電波障害とたたかう農民たち  
瀬谷基地における法律的問題点と鑑定書について  
二つの基地返還問題

- 小山 路男  
田村 元  
石渡 金吾  
伊東 優  
朝倉 陸夫  
谷川 弘・田中俊夫  
松本久雅之介  
村上 処直  
孝二  
猿田 勝美  
川久保 正  
六郷 政  
早瀬 利雄  
河合 正一  
田辺 昇彦  
山上 和彦  
山口 栄雄  
山口 忠正  
小沢 恵一  
内藤 惇之  
磯村 光男  
黒田 俊夫  
村田 一夫  
平井 省三  
西脇 要  
河野 亮永  
中村 八朗  
飛鳥田一雄・潮見俊隆  
渡部 允  
中尾 安治  
山本 博  
門倉 政秋

根岸競馬場の返還運動  
根岸競馬場返還と市民運動  
二五号 (一九七〇年〈昭和四五年〉三月)

京浜工業地帯  
日本の工業立地  
首都圏の土地利用  
成立期の京浜工業地帯  
京浜工業地帯の現状と問題点  
労働者の立場から見た京浜工業地帯  
京浜工業地帯の将来  
京浜工業地帯に関するアンケート  
飯島貞一・石川重石  
岩間昭彦・遠藤幸男・遠藤湘吉  
小幡忠明・石原舜介・門田正三  
杉本和雄・長洲一二・宮崎省吾  
伏木和雄・吉岡陽子・吉川徳夫  
柳下タツ子・東京瓦斯企画室  
李家 孝・横浜高島屋企画室

余暇とその環境  
余暇の今日的意義  
遊びの構造  
労働者と余暇問題  
自然遊歩道の計画と意味  
都市の自然とレクリエーションスペース  
斜面緑地論  
市民とレクリエーション  
二七号 (一九七〇年〈昭和四五年〉十一月)

都市廃棄物  
環境破壊と生命の原理  
廃棄物処理処分の諸問題  
水質汚濁と環境基準  
港湾汚染と沈没船  
公害問題としての廃棄物  
エネルギーと廃棄物  
二八号 (一九七一年〈昭和四六年〉三月)

六大事業の経過と今後の方向  
六大事業の基本理念  
地下鉄建設の計画と実際  
港北ニュータウン ①ニュータウンの開発

- 松永 靖彦  
深山 泰治  
山本 正雄  
石川 允  
服部 一馬  
清水 嘉治  
齋藤 秀夫  
前田 清  
岩間昭彦・遠藤幸男・遠藤湘吉  
小幡忠明・石原舜介・門田正三  
杉本和雄・長洲一二・宮崎省吾  
伏木和雄・吉岡陽子・吉川徳夫  
柳下タツ子・東京瓦斯企画室  
李家 孝・横浜高島屋企画室  
松下 圭一  
田村 明  
板東 慧  
鈴木 忠義  
田畑 貞寿  
仙田 満  
安永 和夫  
宮腰 繁樹  
宮之原 隆  
佐藤 昌之  
江口 昭悟  
猿田 勝美  
平野 豊策  
宮腰 繁樹  
安藤 栄  
林 太郎

港北ニュータウン ②農専地区の形成  
高速道路のネットワーク  
ベイブリッジ計画  
都心部再開発 ①三菱重工移転と跡地の利用  
都心部再開発 ②横浜駅西口の再開発  
都心部再開発 ③都心部の中小工場の移転と協業化  
都心部再開発 ④都心部のなかの緑の軸線  
都心部再開発 ⑤中小工場移転跡の土地利用計画  
金沢地先埋立事業  
二九号 (一九七一年〈昭和四六年〉三月)

新市民と自治  
「横浜と私」を読んで  
小幡勝也・蒔田啓子・高島みち  
荒井由紀子・小原恵美子・生井俊重  
大堀末雄・渡辺俊輔  
外林 大作  
原 芳男  
佐枝 三郎  
浪江 虔  
筒井 安忠  
宮本 功  
新市民自治組織にみられる行政への新しい対応  
三〇号 (一九七一年〈昭和四六年〉六月)

水資源と水行政  
水資源問題を考える  
松本得三・岡村 駿  
横浜市の水道事業の現状と計画  
公営企業としての水道事業  
広域水道行政と地方自治  
六大都市水道事業の比較  
三一号 (一九七一年〈昭和四六年〉九月)

住宅問題の諸側面  
サラリーマンにとって土地・住宅とは何か  
都市問題と土地法の原理  
東京圏の住宅事情  
横浜市の住宅政策の変遷  
民間企業による都市開発と自治体・その一

- 井上 三男  
池沢 利明  
西脇 巖  
入江 昭明  
寺内 孝  
野地 博  
三木 馨  
猪狩 劍正  
村上 武  
大堀末雄・渡辺俊輔  
外林 大作  
原 芳男  
佐枝 三郎  
浪江 虔  
筒井 安忠  
宮本 功  
佐藤 俊一  
松本得三・岡村 駿  
神林 智博  
梅田 康光  
金田 廉二  
田中徳明・中村高也  
蒲池 紀生  
篠塚 昭次  
三宅 醇  
内藤 惇之

企画調整局都市科学研究室

入江昭明・松本得三・岡村 駿  
宅地開発要綱の問題点と今後の方向 広瀬 良一  
三二号 (一九七一年〈昭和四十六年〉一月)

自動車化と道路交通問題

疑問の効用―交通対策へのひとつの提言 岡 並木  
都市交通と生活道路 高橋 敏美  
都市交通の現状と道路計画 長島 熱夫  
道路公害と住民生活 中村 紀一  
公営交通の諸問題 佐藤孝明・佐藤 久・鶴岡晏夫  
杉山明英・伊藤洲三・山内章稔

大都市交通体系の確立と展望

三三号 (一九七二年〈昭和四十七年〉三月)  
蔵園 進

都市環境と生物指標

環境危機と横浜方式―昭和五〇年代に対処する道 助川 信彦  
地球規模における人間環境問題の概観 猿田 勝美  
環境創造への質と量 岩田 幸基  
荒廃した環境・安中からの呼びかけ 高柳 孝行  
―土地問題と土壌汚染 前野 道雄  
大気汚染と植物群落 金子 光美  
水域、水質とその生物相 室岡 秀保  
通信機工場における公害対策の一事例 岡村 駿  
汚染地域における住民とその意識 一鶴見区住民の「公害意識調査」から 仲井 富  
公害の原点をたずねて 足尾・水俣・ビキニ

都市化と財政

都市化と財政 吉沢高一郎  
その一 事業執行と予算配分 小玉重光・佐久間健生  
その二 座談会 成川 登・長谷川久男・吉沢高一郎  
和田瑞男・水島敏彦・岡村 駿

計画と財政

計画と財政 岡本 坦  
横浜市の現状と問題点 岡部 重之  
その一 横浜市の現状 小島 雅雄  
その二 税源配分の現状と大都市税源の拡充について 馬場 貞夫  
その三 財政機構上の問題点 資金調達の問題点

財政収入の市民的健康性

三五号 (一九七二年〈昭和四十七年〉九月) 早瀬 利雄  
住民と「知る権利」 奥平 康弘

「知る権利」とは何か

「知る権利」の享有主体としての住民 原田 清司  
「秘密」とは何か 紀内 隆宏  
地方公務員法第三四条の「秘密」とは何か 中村 紀一  
「知る権利」と市民参加 得手勝手な秘密主義―それとの長期戦 浪江 虔  
三六号 (一九七二年〈昭和四十七年〉一月)

住民の要求と行政の対応

三七号 (一九七三年〈昭和四十八年〉三月)  
―都市科学研究所の調査から 企画調整局都市科学研究室  
A 調査から―「市長への手紙」を中心に 企画調整局都市科学研究室  
住民と役所の間柄―個別事例から 企画調整局都市科学研究室

B 調査から―白幡地区の生活環境を中心に

足洗川沿岸の住民―個別調査 企画調整局都市科学研究室  
白幡西町の住民―個別調査 泉 久美子  
白幡地区とは 市民意識研究会・佐久間健生  
三七号 (一九七三年〈昭和四十八年〉三月)

地方公務員と職業倫理

地方公務員の気質―アポロ型人間 足立 忠夫  
行政能力と行政効果 和田 瑞男  
―市民からみた地方公務員 加藤 一明  
新しい行政改革の模索 中村 陽一  
ある行政改革の記録 大下 寿一  
人事委員会の機能と問題点 宮本英三郎  
三八号 (一九七三年〈昭和四十八年〉六月)

住工混合地域の環境整備

住工混合地域の環境整備 川名吉エ門  
―「計画」の前提を考える 三村 浩史  
住工混合地域環境再整備計画序論 宮西 悠司  
住工混合の問題点と都市政策のあり方 合田 康代  
―大阪市東部・東大阪市の調査から 神戸かあるも地区の場合  
その一 町の人々への接近  
―ルポルターージュ「かるも」

その二 神戸市役所の計画―真野地区再開発構想の背景

岡本 好右  
東京都大田区糀谷地区・荒川区荒川地区の場合 浅川敏克・井沢信臣  
三九号 (一九七三年〈昭和四十八年〉九月)

大都市における地域行政

―区役所のあり方を中心に 町づくりと区役所の役割―戸塚駅周辺再開発の場合 中野 嘉一  
社会教育と地域づくり―神奈川県のある体験 田中 昭一  
住民参加と区政―緑区の住民集會から 平井 義男  
住民による集會施設づくりの問題―中区のある地区セ 仲田 五郎  
ンター計画を考える 佐久間健生  
住民自治と地域行政 添田清二郎  
区政充実の方向 黒沼 稔  
大都市における行政区のあり方 四〇号 (一九七三年〈昭和四十八年〉一月)

大地震の対策と不安

大地震は必ず来る 力武 常次  
都市災害と車 安部 北夫  
横浜地震対策への発言 内山 陸雄  
その一 市民からみた不安 村上 処直  
その二 研究者からみた不安 横濱市地震対策の諸問題 独古 哲世  
その一 地震対策の現段階と問題点 高橋 孝二  
その二 地震対策における一考察 大震災時の避 難路対策として 宮脇 克己  
その三 都市防災と道路の役割―主に大震災時の避 難路対策として 田代 善雄  
その四 防災都市づくりを考える 四一号 (一九七四年〈昭和四十九年〉三月)

都市と精神の問題

都市構造と生活空間―精神衛生的な考え方 竹山 恒寿  
心と健康 新福 尚武  
精神疾患の姿 猪瀬 正  
老人の精神衛生 長谷川和夫  
精神疾患の医療 上村安一郎  
大都市の中の精神衛生―その法制・実態と問題点 萩原 一郎  
都市における精神衛生―過密都市の諸問題

四二号 (一九七四年〈昭和四九年〉六月) 石原 幸夫

都市エネルギーの諸問題

都市のエネルギー問題と公害対策

—市民討議集を仮想録音から

都市エネルギー問題への経済学的接近

環境エネルギー論的に見た都市の一断面

エネルギー危機をどう考えるか

新エネルギー技術開発の現状と問題点

液化天然ガスの有効利用をめぐる

都市廃棄物とエネルギー問題

都市農業に対する清掃工場余熱利用の問題

小沢 恵一

四三号 (一九七四年〈昭和四九年〉九月)

出稼ぎ労働の問題点

出稼ぎはねぐらならぬ—出稼ぎ取材班からの報告

清水 弟

林 信彰

佐藤 正

高橋 重一

都市における出稼ぎ労働の実態

その一 東京の場合

明治学院大学社会学部付属研究所

横浜市出稼ぎ問題研究会

文責 中村 丈夫

その二 横浜の場合

四四号 (一九七四年〈昭和四九年〉一二月)

消費者と物価

家計簿運動からの報告

インフレは克服できるか

生産者・消費者・独禁法

消費者運動—歴史と展望

自治体と福祉行政—重症心身障害児施設をめぐる

福祉問題研究会 牧野 瑋

榊 光司・河野 勉・今井洗夫

横山 悠・仲田五郎※以下同じ

保育問題を考える—対話形式で

現場からみた福祉—ケースワーカーの記録から

福祉問題研究会

福祉労働に関する一考察

四六号 (一九七五年〈昭和五〇年〉六月)

都市と家族の問題

家族とは何か—その存在の今日的意義について

家族のきずなの変化—臨床社会心理の立場からの考察

山室 周平

岡堂 哲雄

神田 道子

籠山 京

新田 慶

中根 愛治

婦人の就労化と家族問題

低所得層の家族

家庭裁判所に見る崩壊家庭

老人と家族

四七号 (一九七五年〈昭和五〇年〉九月)

アーバンデザインの課題

アーバンデザインと自治体

アーバンデザインとは何か

都市部強化事業におけるアーバンデザイン

郊外地域の環境整備手法

海外におけるアーバンデザイン

緑区民生活調査について

緑区民生活調査 作業班

平井義男・久保田正巳・高野年弘

榎 千恵子・野村 功・須田幸隆

中田昭彦・藤川文彦・佐久間健生

佐々木寛志・北小路 清・仲田五郎

岡村 駿 ※以下同じ

緑区民の生活と地域社会—緑区A調査結果を中心に

緑区民生活調査 作業班

住民の要求と行政の対応—緑区B調査結果を中心に

緑区民生活調査 作業班

区・市役所のあり方をめぐって

その一 区へ地域におけるサービス統合にむけて

緑区民生活調査 作業班

その二 座談会—作業班の討論から

緑区民生活調査 作業班・手島 裕

行政権限の分散と住民参加—行政区のあり方を考える

五〇号 (一九七六年〈昭和五一年〉六月)

都市行政の主体制

都市経営論と自治

都市経営論と自治

シンポジウム・横浜過密化とたたかい

第一部 都市と環境

鈴木武夫・仲井 富

助川信彦・猿田勝美・田村 明・船橋成幸

入沢 恒・片田卓夫

長久保美昌・猪狩剣正・反町良雄

田村 明・広瀬良一

浅田 孝・宮腰繁樹

三〇号 広域横浜市の問題点と一提案 成田 宏  
昭和三九年度予算の基本的性格 鳴海 正泰  
横浜市における人事労務管理 二見 勝次  
自動車交通からみた横浜とその対策 後藤 清

四号 自動車の集中管理とその実績 菅原 幸蔵  
戸籍窓口と市民サービス 天野 義弘  
米国主要都市下水道施設について 池田 一郎

五号 横浜市の財政—その現状と対策 清水 恵蔵  
根岸・本牧工業地区における火力発電所立地  
にともなう公害問題の経過 助川信彦・猿田勝美

七号 横浜市人口増加と給源地域の類型—その一 田添京二・篠筒憲爾  
横浜市人口増加と給源地域の類型—その二 田添京二・篠筒憲爾

八号 海外の交通事情について 村岡健一郎  
ヨーロッパ・アメリカの青少年問題印象記 植村 慶富

九号 国庫補助事業における論理と超過負担の実態 梅崎 初夫  
社会教育の根本問題について 田代 元弥  
田代教授の批判にこたえる 清水 嘉治  
区民相談室のその後 能登 久禧

一〇号 横浜市における区制の歴史 佐藤 雅亮  
—付・横浜区政年表 小玉 重光  
募金集めと市民課 横濱市における住宅金融公庫一般個人融資住宅  
の実態調査とその分析へ一 内藤 亮一  
施設からみた文化度 高井 芳

一一号 横浜市における住宅金融公庫一般個人融資住宅  
の実態調査とその分析へ二 内藤 亮一  
ストックホルムの都市開発について 鈴木 和夫  
スラム清掃—アメリカのスラム二著とトヤ街  
考 芹沢 勇

一二号 根岸湾臨海工業地帯の造成と公害行政 猿田勝美・鳴海正泰  
中村 紀一

一三号 横浜市における公共投資の財源問題 中村 紀一

一四号 横浜市政と市民の期待 田代 昌史  
横浜市をめぐる人口移動の地域的構造へ一 横山 桂次  
横浜市をめぐる人口移動の地域的構造へ二 田添京二・篠筒憲爾  
現行土地関係法における宅地の技術的要件 内藤 亮一  
横浜の変貌と新住市民の自治意識 横山 桂次

一五号 横浜の変貌と新住市民の自治意識 横山 桂次  
横浜の公害対策について 横山 桂次  
横浜の保育所問題 牧野 瑯・今井洗夫  
土地利用計画における宅地の技術的要件 内藤 亮一

一六号 横浜の都心部における交通規制試論 野村 良政  
居住環境の質の評価等における宅地の技術的  
要件 内藤 亮一  
欧米における港都労働者の雇用形態 高見玄一郎

一七号 横浜市における副都心の開発 野村 良政  
地方財政の危機と財源配分問題 梅崎 初夫  
市民相談からみた宅地造成の問題点 能登久禧・広瀬良一

一八号 都市計画よりみた公有水面埋立事業 野村 良政  
多摩田園都市問題協議会とその成果について 齋藤 栄  
結合による新しい試み 中村 賢二  
新しい首都圏整備の方向 雨宮 利次  
横浜市における幹線道路の整備促進について 野村 良政

一九号 英国における地域開発政策の性格 清水 嘉治

二四号 欧州各都市の開発と再開発について 野村 良政

二六号 地下鉄建設にともなう問題点 村岡健一郎  
都市化と老人病 辻合 博  
パースントリップ調査からみたレジャー・リ  
クリエーションの構造 後藤 清

二七号 横浜市都市廃棄物研究会の経過 三木 馨  
幹線道路の自動車公害防止についての試論 野村 良政

二八号 東西ヨーロッパの公害視察の印象 助川 信彦

二九号 新市民への行政サービス 田子 幹夫  
緑区新市民の市民参加への道 平井 義男  
水資源に関する法制度の沿革 春田 園典

三〇号 住民組織への提案—自治会・町内会実態調査  
から 佐久間 健生  
日照陳情と市民相談室 岩間 忠雄  
ある重婚例に関する一考察 河原 英夫  
経済・社会開発の促進者としての地方団体の  
役割—IULATロント会議に出席して 鎌田 要人

三一号 道路行政の末端から 道路問題研究会  
遠藤輝雄・加藤正美・金近忠彦  
鎌田親人・日野孝美・平野俊雄  
堀込啓子

三二号 民間企業による都市開発と自治体・その二  
—東急多摩田園都市の場合 企画調整局都市科学研究室  
入江昭明・松本得三・岡村 駿  
—東急多摩田園都市の場合 企画調整局都市科学研究室

三三号 民間企業による都市開発と自治体・その三  
—東急多摩田園都市の場合 企画調整局都市科学研究室  
赤木幹一・根浦重雄・徳江義治  
松沢由貞・石田頼房・山東良文  
寺門敏雄・平井義男・影島鉄郎

三四号 横浜市における用地問題 財政問題研究会  
岩田任史良・大木秀夫  
川股 隆・水島敏彦  
田村 明

三二号 湾岸道路と本牧港湾住宅団地計画の調整にあ  
る 田村 明

三二号 湾岸道路と本牧港湾住宅団地計画の調整にあ  
る 田村 明

- たつて  
住所即本籍について  
自治体と情報公開  
三九号  
三六号  
三七号  
三八号  
三九号  
四〇号  
四一号  
四二号  
四三号
- 金近 忠彦  
古池谷 泉  
横濱市行政法研究会  
里山隆志・古川邦雄・上田英雄  
大山浩明・矢島 真・青木茂夫  
宮川勝明  
生物指標論へ上  
四電 安正  
河原 英夫  
区役所事務と外国人  
新都市基盤整備事業と土地地区画整理事業の今後のゆくえ  
久保田 博  
市民意識研究会の討論か  
大沢 浩・加賀谷正彦・桑川俊一  
小林一男・佐久間健生・田中昭一  
平井義男・宮川勝明・松本得三  
春田罔典・岡村 駿・泉久美子  
「足洗川沿岸の住民」を読んで  
小林 一男  
人事行政の基本原則を求めて―地方公務員法をめぐる諸問題  
長沢 徹郎  
地方公務員法・地方自治法の変遷表  
横濱市行政法研究会  
里山隆志・古川邦雄・上田英雄  
大山浩明・矢島 真・宮川勝明  
横濱市の場合―住宅事情と生活環境の調査から  
岡村 駿・地曳良夫  
窓口事務をめぐる諸問題―ある問いかけ  
河原 英夫  
横濱市民の生活行動―パーソントリップ調査の解析から  
加藤俊道・長島熱夫  
密集市街地の大震災に関する相対的危険度判定とその考察  
宮脇 克己  
欧州の老人、医療、公害対策について  
岩本 正夫  
他都市の調査・研究機関の活動―大阪市・仙台市・川崎市の場合  
中川久美子  
横濱市旭清掃工場余熱利用施設について  
三木 馨  
鉄道車両騒音とその防止について  
松井 信夫  
都市再開発の基本方向をさぐる―横濱市市街地再開発調査から  
岸田比呂志・反町良雄

- 四四号  
四五号  
四六号  
四七号  
四八号  
四九号  
五〇号
- 横濱市環境事業小史へ上―ごみ、し尿処理史  
上村 信義  
横濱市環境事業小史へ下―ごみ、し尿処理史  
上村 信義  
横濱の家族―世帯構成とそのくらし  
齊藤 淳一  
主婦と地域活動―個別事例調査から  
中川久美子  
国内諸都市のアーバンデザインへの試み  
国吉 直行  
ルイス・マンフォードの全体像―略歴にみる試論  
三木 馨  
超過負担の考え方と問題点  
金山 彰  
ニューヨーク財政危機とアメリカの都市問題  
佐々木寛志  
言葉と自治体―私達は信頼されているか  
大山浩明・砂川忠雄・松本得三  
横濱のメッシュデータの現況と今後の課題  
松井重利・稲葉哲三・反町良雄  
鳥居盛男・高橋敏美  
区民生活の一側面―緑区生活保護受給世帯より  
須田 幸隆  
指定都市の区役所について―横濱市の現状と関連させて  
藤川 文彦  
自治体における企画調整部門の変遷と現状  
都市科学研究室・北小路 清  
企画調整室の誕生まで―横濱市の企画調整部門の変遷  
青木 虹二  
アメリカ・イギリスと横濱の市民参加  
矢部 勝彦  
義務教育人口推計の一つの試み  
舟田瑞津子  
民間アパートの居住者をめぐって  
中川久美子  
①民間アパート居住者の生活歴と生活感情  
②中高年齢民間アパート居住者とその背景  
齊藤 淳一

- ★ 行政資料・資料紹介・文献紹介  
一〇号  
二五号
- 地域における募金等の実態調査―町内会を通じる税外負担の一面  
調査室・菊池 庄蔵  
大ロンドン地方行政に関する王室委員会  
一八九五七六〇の報告書  
調査室・小玉 重光  
〃市長への手紙〃から  
能登 久禔  
ロスアンゼルス都市計画委員会の組織等  
白居 昭三  
根岸・本牧地域の公害対策についての提言  
野口雄一郎・山本幹夫  
野口嘉治・桜井 毅  
ミカエリリス・ブレイリーショーアー再開発事業最終報告―一九六二年四月―  
長野 尚友  
横濱市における移動人口の実態  
齋藤 正雄  
「子供を大切にす市政に提案する」  
川崎 万博  
応募市政論文・優秀作品  
田島公位・山田久夫  
大都市財政に即応する税制の確立について  
調査室・小玉 重光  
横濱市の工業化進展にともなう公害災害の諸問題について  
横濱市都市科学研究グループ  
野口雄一郎・緒形昭義・山賀岑朗  
森口 実・桜井 毅  
指定都市事務局  
齊藤 正雄  
横濱市  
横濱市宅地開発要綱  
清水 嘉治  
東海道新貨物線計画に関する提言  
廣岡 治哉  
大都市財政の実態に即応する財源の拡充について  
六代市長・市議会議長  
多摩ニュータウンについて  
東京問題調査会  
昭和四四年度予算編成方針  
横濱市  
市町村と国家  
ロジエ・オーバン編  
横濱市の都市交通問題にかんする提言  
大都市交通問題研究会  
蔵園 進・広岡治哉  
緒方昭義・榎 幸雄  
昭和四五年度予算編成方針  
横濱市  
都市問題関係誌目録  
沢田 美博  
既設工業地域の公害対策に関する提言  
横濱市既設工業地域公害対策調査会

二七号	昭和四四年度地盤沈下調査結果の概況ならびに四五年度調査事業計画について	横濱市 日本鋼管扇島移転の公害防止	田村 明 日本鋼管株式会社社京浜製鉄所に関する公害防止協定の締結について	神奈川県・横濱市 川崎市・日本鋼管株式会社 都市科学研究所
二八号	水資源関係参考資料 『調査季報』総目次へ一号〜三〇号	都市科学研究所		
三〇号	『横濱市における都市廃棄物の実態調査』についで	三木 馨		
三二号	高速道路建設に伴う公害対策について 〔中間答申〕	横濱市公害対策審議会		
三三号	土地開発分担金法について	長野 尚友 山尾 清種		
三五号	『東京都秘密文書及び取扱に注意文書処理基準』について			
三七号	外国諸都市の人事問題へ一〜ハンブルグ・ボンベイ 企画調整局都市科学研究所			
三八号	人事行政関係参考文献―国会図書館の「人事行政」行政組織―件名目録から	泉 久美子		
三九号	イギリスにおける地域開発と都市政策問題に關するノート 清水 嘉治			
四〇号	外国諸都市の人事の問題へ二〜トリノ・グロノープル 企画調整局都市科学研究所			
四一号	諸外国における地方制度―ロンドン・リヨンを中心として	矢部 勝彦		
四二号	外国の防災と市民組織―スイスを中心に	独古 哲世		
四三号	横濱市土地開発公社へ直営の路外駐車場の新設、開業に当って―そのプレテスツト的作用	鳥井 陸八		
四四号	横濱市職員の住所地分布傾向―行政と地域の結びつきを考える基礎資料として	杉浦 孝		
四五号	横濱市市民生活関連物資緊急対策本部の活動経過	富田日出男		
四六号	『苦海浄土』	長野尚友		

四五号 横濱市総合福祉行政調査研究報告書へ第一次報告書  
総合福祉行政調査研究委員会

四八号	モスクワとレーニングラードの道路名称の由来	阿部志郎・藤村 哲	富田富士雄・瓜巢憲三
★	新書紹介・市民生活白書批評 ―新しい横濱への展望―を批評する	三浦恵司・小島康雄・武田英治 井上庄平・和田瑞男・元木光男	
四九号	『新都市の計画』 『都市問題講座』一〜三巻 『The Future of London』 『都市づくり』	調査室 調査室 調査室 調査室	
五〇号	『現代の地方自治』	調査室	
五一号	『大都市の解剖』	調査室	
五二号	『都市問題講座』五・六巻	調査室	
五三号	『現代の地方自治』	調査室	
五四号	『大都市の解剖』	調査室	
五五号	『自治体改革の理論的展望』 Man In Metropolis	調査室	
五六号	『都市問題講座』―都市計画	調査室	
五七号	『現代日本の地域政治の構造』	調査室	
五八号	『日本列島の将来像』	調査室	
五九号	『都市化時代の日本経済』	調査室	
六〇号	『危機に立つ地方自治』	調査室	
六一号	『現代都市論』	調査室	
六二号	『道路の経済学』	調査室	
六三号	『社会資本論』	清水 嘉治	
六四号	『日本都市論』	企画調整室	
六五号	『新しい都市理論』	企画調整室	
六六号	『変動する大都市』	企画調整室	
六七号	『危機に立つ都市交通』	企画調整室	
六八号	『都市の時代』	企画調整室	
六九号	『環境開発論』	企画調整室	
七〇号	『アメリカ大都市の死と生』	企画調整室	
七一号	『地方自治の理論と構造』	松本 得三	
七二号	『個性あるレジャー』	根本 和夫	
七三号	『苦海浄土』	池田 武文	

二九号	『横濱と私』を読んで―市民生活白書・昭和四六年	※筆者は同号特集に掲載
三〇号	『市民参加』	佐田 国典
三一号	『市民参加』	春田 健生
三二号	『地方自治の政治学』	岡村 健生
三三号	『現代の行政と行政法の理論』	岡村 健生
三四号	『住民のための地方自治』	古川 邦雄
三五号	『都市変革の思想と方法』	春田 国典
三六号	『現代都市政策IV』―都市の経営	大沢 浩
三七号	『住民自治の権利』	水島 敏彦
三九号	『関東大震災』	岡村 駿
四〇号	『都市病理学』	池田 武文
四二号	『市民参加と地域政治』	田口三枝子
四三號	『国際シンポジウム「人間と交通」』そのすべて	前野 良
四四号	『日本人とすまい』	長谷川雅彦
四五号	『私の横濱』市民生活白書・昭和五〇年	砂川 忠雄 仲田 五郎
四六号	『居宅老人の生活と親族網』	副田 義也
四七号	『都市と保存』上・下	大沢 浩・田口三枝子 舟田鷗津子・田中昭一 佐々木寛志
四八号	『地方自治の財政学』	岡部 重之
四九号	『環境破壊と社会的費用』	高橋 敏美
五〇号	『日本の地方自治』	尾沢 詳憲 尾沢 詳憲 尾沢 詳憲 尾沢 詳憲 尾沢 詳憲 尾沢 詳憲

★	読書案内	企画調整室
四七号	アーバンデザイン関係の文献	青木 虹二
四八号	地方財政関係の文献	青木 虹二
四九号	緑区の前身・都筑郡のころ	青木 虹二
五〇号	企画と調整	青木 虹二
★	市政日誌	企画調整室
四八号	昭和五〇年（一九七五年）八月〜一〇月	
四九号	昭和五〇年（一九七五年）十一月〜昭和五一年（一九七六年）一月	



★ その他・読者のページ

一〇号 発刊にあたって 板橋 英二  
三三〇号 『調査季報』一〇年目を迎えて 田村 明  
五〇〇号 読者の頁『調査季報』四九号八区民生活と行政の対応を讀んで  
『調査季報』総目次・執筆者名索引へ一〇五〇号  
都市科学研究室

(2) 執筆者名索引

相原 虹二	青木 茂夫	青沼 昭治	赤木 幹一	浅川 敏克	朝倉 陸夫	朝倉 孝	浅田 一雄	飛鳥田 忠夫	足立 北夫	阿部 志郎	阿部 義弘	天野 利次	雨宮 利次	荒井 由紀子	安藤 昌夫	安藤 昌夫	飯島 貞一	猪狩 貞一	池田 一郎	池田 武文	池谷 利明	井沢 重石	石川 允	石川 重石	石田 頼房	石森 良介	石原 幸夫	石原 幸夫	石渡 金吾	石渡 金吾	磯村 光男	板橋 英二	板谷 雄二								
一六	四七、四八	四九、五〇	三五、三七	三三、三四	一六、一八	二〇、二四	一三、一四	二四、二七	三七、四〇	四四、四五	四四、四五	二〇、二四	二〇、二四	二八、二九	二八、二九	二八、二九	二五、二六	二八、二九	二七、二八	二七、二八	二七、二八	二八、二九	二八、二九	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六	二五、二六						
市瀬 哲也	井手 幸平	伊藤 文雄	伊藤 功雄	伊藤 雅章	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市	伊藤 善市				
四八	四三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三	二、一三		
江成 藤吉	海老原 毅	江本 義理	遠藤 湘吉	遠藤 輝雄	遠藤 幸男	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	小江 秀夫	
一五〇	一〇	一七	二五	二五	二五	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
小幡 勝也	小幡 忠明	小原 惠美子	加賀谷 正彦	角本 良平	影島 鉄郎	籠山 京	河西 稔	梶浦 重雄	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫	片岡 宏夫
二九	二五	二九	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六

小林 義隆 三、五、 二五〇  
 小林 弘親 三、 三六〇  
 小林 一男 三、 二六〇  
 後藤 清 三、 二二〇  
 小杉 国雄 三、 二二〇  
 小島 康雄 三、 二二〇  
 小島 雅雄 三、 二二〇  
 河野 勉 三、 二二〇  
 合田 康代 三、 二二〇  
 小泉 秀信 三、 二二〇  
 小泉 富太郎 三、 二二〇  
 古池 谷 三、 二二〇  
 桑沢 世竜 三、 二二〇  
 黒沼 俊夫 三、 二二〇  
 栗原 操 三、 二二〇  
 蔵園 進 三、 二二〇  
 桑川 俊一 三、 二二〇  
 久保田 正巳 三、 二二〇  
 久保田 博 三、 二二〇  
 国吉 直行 三、 二二〇  
 木村 宏 三、 二二〇  
 紀平 梯子 三、 二二〇  
 北見 俊郎 三、 二二〇  
 岸本 重 三、 二二〇  
 岸本 実 三、 二二〇  
 岸田 比呂志 三、 二二〇  
 菊池 庄蔵 三、 二二〇  
 紀内 隆宏 三、 二二〇  
 神戸 正 三、 二二〇  
 神林 智博 三、 二二〇  
 神田 道子 三、 二二〇  
 川村 仁也 三、 二二〇  
 河村 十寸穂 三、 二二〇

篠筈 憲爾 一三、七、八  
 安正 昌夫 二、一六  
 潮見 俊隆 二、三五  
 四竈 安正 二、三五  
 山東 良文 三、三三  
 沢西 義博 三、三三  
 須田 幸隆 四、四〇  
 砂川 忠雄 四、四〇  
 諏訪 部 四、四〇  
 鈴川 哲彦 二、二六  
 鈴木 忠義 二、二六  
 鈴木 武夫 二、二六  
 鈴木 祥 二、二六  
 杉山 明英 二、二六  
 杉山 和三 二、二六  
 菅原 幸蔵 二、二六  
 白根 雄偉 一、一六  
 白土 秀次 一、一六  
 白木 昭男 一、一六  
 清水 嘉治 一、一六  
 清水 久雄 一、一六  
 清水 弟 一、一六  
 新福 尚武 一、一六  
 地曳 良夫 一、一六  
 柴田 徳衛 一、一六  
 篠塚 昭次 一、一六

仙田 満 二、一六  
 芹沢 音三 二、一六  
 関 七 二、一六  
 須田 幸隆 四、四〇  
 砂川 忠雄 四、四〇  
 諏訪 部 四、四〇  
 鈴川 哲彦 二、二六  
 鈴木 忠義 二、二六  
 鈴木 武夫 二、二六  
 鈴木 祥 二、二六  
 杉山 明英 二、二六  
 杉山 和三 二、二六  
 菅原 幸蔵 二、二六  
 白根 雄偉 一、一六  
 白土 秀次 一、一六  
 白木 昭男 一、一六  
 清水 嘉治 一、一六  
 清水 久雄 一、一六  
 清水 弟 一、一六  
 新福 尚武 一、一六  
 地曳 良夫 一、一六  
 柴田 徳衛 一、一六  
 篠塚 昭次 一、一六

田中 昭一 三、三六  
 田中 祥夫 一、四七  
 立神 孝 一、四七  
 田添 京二 四、一八  
 田代 善雄 四、一八  
 田代 光弥 四、一八  
 田代 昌史 四、一八  
 田島 公位 二、四九  
 田子 幹夫 二、四九  
 竹山 恒寿 二、四九  
 武田 英三 二、四九  
 竹島 卯三郎 二、四九  
 田口 三枝子 二、四九  
 滝沢 東彦 二、四九  
 高柳 孝行 二、四九  
 高見 玄一郎 一、一八  
 高橋 正宏 四、一七  
 高橋 四郎 四、一七  
 高橋 尚平 四、一七  
 高橋 重雄 四、一七  
 高橋 孝二 二、一七  
 高橋 輝一郎 二、一七  
 高野 年弘 二、一七  
 高瀬 定雄 二、一七  
 高島 みち 二、一七  
 高木 鉦作 二、一七  
 大井 一樹 一、一七  
 大門 夕 一、一七  
 外林 大作 二、四九  
 副田 義也 二、四九  
 添田 清二郎 一、〇

鳥井 陸八 一、四九  
 鳥井 盛男 四、一八  
 富田 富士雄 一、四八  
 富田 日出男 一、四八  
 独古 哲世 四、一〇  
 徳江 義治 三、一〇  
 徳植 末樹 三、一〇  
 時任 直人 一、一六  
 寺門 敏雄 三、二八  
 寺内 孝裕 三、二八  
 手島 裕 三、二八  
 鶴岡 晏夫 三、二九  
 筒井 安忠 三、二九  
 土屋 晃朔 三、二九  
 辻村 清明 三、二九  
 辻 明 三、二九  
 反町 良雄 四、一八  
 田村 元 四、一八  
 田村 貞明 四、一八  
 田村 弘 四、一八  
 谷川 昇 二、一六  
 田辺 明 二、一六  
 田中 徳明 二、一六  
 田中 俊夫 二、一六  
 田中 武 二、一六  
 田中 正司 四、一五

成田 宏 二、一四  
 成川 登 二、一四  
 浪江 陽一 二、一四  
 中村 美保 二、一四  
 中村 実 二、一四  
 中村 八朗 二、一四  
 中村 丈夫 二、一四  
 中村 高也 二、一四  
 中村 孝俊 二、一四  
 中村 賢二 二、一四  
 中村 喜美子 二、一四  
 中村 紀一 三、二二  
 中村 宇一郎 三、二二  
 長野 尚友 三、二二  
 中野 嘉一 三、二二  
 中根 愛治 三、二二  
 中田 太郎 三、二二  
 仲田 昭彦 三、二二  
 長洲 昭彦 三、二二  
 中島 弘善 三、二二  
 長島 孝一 三、二二  
 長島 熱夫 三、二二  
 長沢 徹郎 三、二二  
 長久保 美昌 三、二二  
 中川 (息) 久美子 三、二二  
 中尾 安治 三、二二  
 仲井 富 三、二二  
 内藤 亮一 三、二二  
 内藤 惇之 三、二二

鳥井 陸八 一、四九  
 鳥井 盛男 四、一八  
 富田 富士雄 一、四八  
 富田 日出男 一、四八  
 独古 哲世 四、一〇  
 徳江 義治 三、一〇  
 徳植 末樹 三、一〇  
 時任 直人 一、一六  
 寺門 敏雄 三、二八  
 寺内 孝裕 三、二八  
 手島 裕 三、二八  
 鶴岡 晏夫 三、二九  
 筒井 安忠 三、二九  
 土屋 晃朔 三、二九  
 辻村 清明 三、二九  
 辻 明 三、二九  
 反町 良雄 四、一八  
 田村 元 四、一八  
 田村 貞明 四、一八  
 田村 弘 四、一八  
 谷川 昇 二、一六  
 田辺 明 二、一六  
 田中 徳明 二、一六  
 田中 俊夫 二、一六  
 田中 武 二、一六  
 田中 正司 四、一五

成田 宏 二、一四  
 成川 登 二、一四  
 浪江 陽一 二、一四  
 中村 美保 二、一四  
 中村 実 二、一四  
 中村 八朗 二、一四  
 中村 丈夫 二、一四  
 中村 高也 二、一四  
 中村 孝俊 二、一四  
 中村 賢二 二、一四  
 中村 喜美子 二、一四  
 中村 紀一 三、二二  
 中村 宇一郎 三、二二  
 長野 尚友 三、二二  
 中野 嘉一 三、二二  
 中根 愛治 三、二二  
 中田 太郎 三、二二  
 仲田 昭彦 三、二二  
 長洲 昭彦 三、二二  
 中島 弘善 三、二二  
 長島 孝一 三、二二  
 長島 熱夫 三、二二  
 長沢 徹郎 三、二二  
 長久保 美昌 三、二二  
 中川 (息) 久美子 三、二二  
 中尾 安治 三、二二  
 仲井 富 三、二二  
 内藤 亮一 三、二二  
 内藤 惇之 三、二二

成田 宏 二、一四  
 成川 登 二、一四  
 浪江 陽一 二、一四  
 中村 美保 二、一四  
 中村 実 二、一四  
 中村 八朗 二、一四  
 中村 丈夫 二、一四  
 中村 高也 二、一四  
 中村 孝俊 二、一四  
 中村 賢二 二、一四  
 中村 喜美子 二、一四  
 中村 紀一 三、二二  
 中村 宇一郎 三、二二  
 長野 尚友 三、二二  
 中野 嘉一 三、二二  
 中根 愛治 三、二二  
 中田 太郎 三、二二  
 仲田 昭彦 三、二二  
 長洲 昭彦 三、二二  
 中島 弘善 三、二二  
 長島 孝一 三、二二  
 長島 熱夫 三、二二  
 長沢 徹郎 三、二二  
 長久保 美昌 三、二二  
 中川 (息) 久美子 三、二二  
 中尾 安治 三、二二  
 仲井 富 三、二二  
 内藤 亮一 三、二二  
 内藤 惇之 三、二二

成田 宏 二、一四  
 成川 登 二、一四  
 浪江 陽一 二、一四  
 中村 美保 二、一四  
 中村 実 二、一四  
 中村 八朗 二、一四  
 中村 丈夫 二、一四  
 中村 高也 二、一四  
 中村 孝俊 二、一四  
 中村 賢二 二、一四  
 中村 喜美子 二、一四  
 中村 紀一 三、二二  
 中村 宇一郎 三、二二  
 長野 尚友 三、二二  
 中野 嘉一 三、二二  
 中根 愛治 三、二二  
 中田 太郎 三、二二  
 仲田 昭彦 三、二二  
 長洲 昭彦 三、二二  
 中島 弘善 三、二二  
 長島 孝一 三、二二  
 長島 熱夫 三、二二  
 長沢 徹郎 三、二二  
 長久保 美昌 三、二二  
 中川 (息) 久美子 三、二二  
 中尾 安治 三、二二  
 仲井 富 三、二二  
 内藤 亮一 三、二二  
 内藤 惇之 三、二二

成田 宏 二、一四  
 成川 登 二、一四  
 浪江 陽一 二、一四  
 中村 美保 二、一四  
 中村 実 二、一四  
 中村 八朗 二、一四  
 中村 丈夫 二、一四  
 中村 高也 二、一四  
 中村 孝俊 二、一四  
 中村 賢二 二、一四  
 中村 喜美子 二、一四  
 中村 紀一 三、二二  
 中村 宇一郎 三、二二  
 長野 尚友 三、二二  
 中野 嘉一 三、二二  
 中根 愛治 三、二二  
 中田 太郎 三、二二  
 仲田 昭彦 三、二二  
 長洲 昭彦 三、二二  
 中島 弘善 三、二二  
 長島 孝一 三、二二  
 長島 熱夫 三、二二  
 長沢 徹郎 三、二二  
 長久保 美昌 三、二二  
 中川 (息) 久美子 三、二二  
 中尾 安治 三、二二  
 仲井 富 三、二二  
 内藤 亮一 三、二二  
 内藤 惇之 三、二二

成田 宏 二、一四  
 成川 登 二、一四  
 浪江 陽一 二、一四  
 中村 美保 二、一四  
 中村 実 二、一四  
 中村 八朗 二、一四  
 中村 丈夫 二、一四  
 中村 高也 二、一四  
 中村 孝俊 二、一四  
 中村 賢二 二、一四  
 中村 喜美子 二、一四  
 中村 紀一 三、二二  
 中村 宇一郎 三、二二  
 長野 尚友 三、二二  
 中野 嘉一 三、二二  
 中根 愛治 三、二二  
 中田 太郎 三、二二  
 仲田 昭彦 三、二二  
 長洲 昭彦 三、二二  
 中島 弘善 三、二二  
 長島 孝一 三、二二  
 長島 熱夫 三、二二  
 長沢 徹郎 三、二二  
 長久保 美昌 三、二二  
 中川 (息) 久美子 三、二二  
 中尾 安治 三、二二  
 仲井 富 三、二二  
 内藤 亮一 三、二二  
 内藤 惇之 三、二二

原田清司	早瀬利雄	林信彰	林太郎	馬場貞夫	服部一馬	長谷川雅彦	長谷川久男	長谷川尚男	萩原一郎	萩原和夫	八	野村良政	野村功	能登久禧	野田勉	野地博	野口雄一郎	根本和夫	根津栄一	新田慶	西脇巖	西脇要	西脇勝二	鳴海正泰	生井俊重	成田頼明
二、九	一、六	二、七	二、二	二、一	一、九	二、二	二、一	一、八	一、九	二、二	二、一	一、九	二、二	二、一	四、	二、八	二、六	二、五	二、六	四、	二、八	二、三	二、一	八、一	二、九	二、六
三二九	三三三	四三三	四三三	三三四	二二五	四二四	三二四	二二六	四一四	四一四	二二七	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二

牧野千枝子	榎野道雄	前野清	前野啓子	蔦田啓子	本多常信	堀込啓子	古田光	古川邦雄	船橋成幸	舟田瑞津子	瀧上和彦	二見勝次	藤村哲	藤卷利吉	伏木和雄	藤川文彦	深山泰治	深沢淑子	広瀬良一	広岡治哉	平野守之	平野豊栄	平井義男	平井省三	日野孝美	坂東慧	春田園典	
一、六	一、七	三、	二、九	二、九	四、五	三、	一、六	三、五	四、八	四、五	三、	二、	四、	二、	二、	二、	二、	三、	五、〇	一、九	一、九	四、九	三、六	二、九	三、	二、	三、	三、〇
四四九	四四一	四三三	二二九	二二九	四五	三二	一六	三七	五〇	五〇	二二	二二	四五	二二	二二	二二	二二	二二	三一	三三	四四	二二	三三	三三	三三	二六	三一	

村岡健一郎	武藤暢夫	宮脇克己	宮本功	宮本英三郎	宮之原隆	宮西悠司	宮島義一	宮崎繁樹	三宅省吾	宮腰醇	宮川勝明	三村浩史	箕輪年雄	水野和昌	水島敏彦	水沢勲	三浦恵司	三木馨	松本得三	松本久雅之介	松永靖彦	松澤圭一	松沢由貞	松井重利	松井重利	梶野幸雄	牧野博康	
二、四	二、四	二、	三、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、
二四	二五	四〇	二七	二七	二八	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三

吉川徳夫	吉岡陽子	横山桂次	横山瀬	山本正雄	山本清博	山本清夫	山室周平	山田栄雄	山田久夫	山田長夫	山田今次	山田鉄一	山口忠正	山口辰男	山賀岑朗	山尾清種	山内章彦	矢部勝彦	安永和夫	矢島真	柳下タツ子	守屋太郎	森本三男	森田文行	森田光男	元木光	室岡秀保	村上武	村上直
一、五	一、三	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、	二、
二二五	二二五	四四九	四四七	四二八	四二四	四二〇	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六	四二六

渡部光雄	渡部精允	渡辺俊輔	和田瑞男	六郷政寛	李家孝	力武常次	吉田孝古磨	吉沢高一郎
一、	一、	一、	三、	二、	二、	二、	一、	一、
一七	二四	二九	三七	二一	二五	四〇	一三	一三